

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 三宅	
日 時	平成24年2月20日(月曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 26 分
出席委員	◎菱田 ○福井 井上 馬場 藤本 湊 小島 西口		
出席理事者	高屋まちづくり推進部長、柴田まちづくり推進部理事 古林都市計画課長、関口都市計画課計画係長		
出席事務局	三宅		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 名	議員 1名

会 議 の 概 要

10:00

1 開議（菱田委員長あいさつ）

〔理事者入室〕 まちづくり推進部 10:02～

<まちづくり推進部長あいさつ>

2 都市計画マスタープラン改定原案について（行政報告）

<都市計画課長 資料に基づき説明>

～10:33

〔質疑〕

<井上委員>

公共交通の空白地域、東別院町等への対応について、具体的にどのような移送手段の確保に向けた方策を考えているのか。

<都市計画課長>

路線バスの方法では現実的に難しいと考えている。デマンド的な需要に応じた方策を考えなければいけない。ただしバス形態か乗合タクシー的な形態がよいのか、また地元、NPOの運営形態などが今後の課題である。500名以上の住民の地域については、何らかの移送手段を確保しなければならないと考えている。

<まちづくり推進部理事>

アンケートをどのような方法でとるべきかについて、公共交通対策特別委員会と協議している。

<西口委員>

近接の自治体との連携が重要な位置づけであると考えているが、その印象が薄い。広域的な立場でどのように考えているのか。防災面、道路整備網、埋め立て処分地の問題など広域的な連携について亀岡市の考え方は。

<都市計画課長>

京都府における南丹地域の区域マスタープランに即して、広域的な視点をもつ必要がある。防災については概要版に表現できていないが、広域連携を図ることを項目として挙げており、道路については、促進協議会を中心に進めており、計画の中身

をさらに点検する。

<馬場委員>

- ① 将来人口フレームについて、南丹区域の都市計画と本市の人口フレーム10万人、8.2%増とは整合しているのか。
- ② 将来工業フレームについて、1500億円と大幅なアップを見込んでいるがその根拠は。
- ③ 将来の農業フレームも計画に入れるべきでは。
- ④ 地域拠点について、防災面を考えると各学校も含めないといけないのでは。
- ⑤ 集落拠点ネットワーク型都市の考え方について、都市拠点間の双方向のフレームはどのように考えているのか。

<都市計画課長>

- ① 人口フレームについて、国勢調査の速報値を実績値として8.2%増としたものの。
- ② 将来工業フレームについては、平成21年の工業統計によると1202億円、本市人口1人あたり約130万円の出荷額であり、現在京都市は143.7万円である。これを上回る150万円を目標として、平成32年の人口目標10万人で1500億円と設定したものである。また、土地フレームについても検討しており、新規産業拠点形成の候補地として、大井町南部地区4.3ha、篠インター付近21ha、亀岡インター周辺18haの計43.3haあり、これを平成21年で1haあたり7.1億円と換算し、差額298億円をこの面積で充足するものとしている。この中には、既存企業が衰退しないようにさらなる支援を行うことも前提としている。
- ③ 農業フレームについては、都市整備分野におけるマスタープランであるので、農業部分とは共存、調整を図る位置づけとしており、あえて盛り込んでいない。
- ④ 住宅拠点としての考え方を基本としているので、自治会館周辺としている。町によっては学校のないところもあり、学校までは拠点に位置付けていない。
- ⑤ 都市拠点間の連携は重要。各都市核の相互連携につながる道路網整備、公共交通の連携も必要と考えている。

<馬場委員>

亀岡インター付近にはレタス栽培などの新型の集約農業もあるが、そういうものもフレームの中に入っているのか。

<都市計画課長>

農業分野とは一定切り離したものとしているが、農業振興とも調整を図りながら、市街地の拡大も含め、共存、共生を図っていきたい考えである。

<湊委員>

- ① 見直しの背景について、「都市づくりの転換を図る」とはどのような意味か。
- ② 人口フレーム10万人の手法として、区画整理事業に人口を貼り付けるとされているが、区画整理事業は地域主導であり、人口増と結びつけるには不自然である。停滞している状態もあるが、その考え方は。
- ③ 道路網の整備について、国道9号の渋滞が大きな問題であるが、これからの区画整理による大井町南部や大型スポーツ施設の誘致などにより、車の流れが大きく変わってくることが予想される。千代川～篠間の縦の道路とアクセス道路をどのように考えているのか。思い切った施策が必要ではないか。
- ④ パブリックコメントによる市民意見をどの程度プランに反映させるのか。

<都市計画課長>

- ① 転換とは、今までは市街地拡大を図ることを役目としてきたが、これからはコンパクトなまちづくりと一括している。それは、中心市街地を核とした集積を図ること、区画整理等による人口増を図ることであり、また、商工業における縦貫道等を活用した新たな拠点づくりも大きな転換となるものである。
- ② 本市は最高9万6千人まで人口が伸びたので、あと4千人という考え方に立つと、駅北を含めたエリアの中で、区画整理や民間開発を受け皿として人口の貼り付けは可能と考えている。実際の人口増加策としては、魅力ある便利なまち、雇用創出により職住一体のまちづくりを進めていく必要がある。
- ③ 構想路線として、桂川右岸道路の検討を進めていきたいと考えている。
- ④ 市民意見を集約して都市計画審議会に諮る予定である。審議会での議論を踏まえ、取り入れられるものは改定案の段階で示していきたい。

<湊委員>

千代川～篠間のアクセス道路について、大規模スポーツ施設誘致関連の資料では、駅北の道路整備のみであり、宇津根から千代川まで線が引かれていなかった。千代川まで線を引くべき。

<まちづくり推進部長>

現在の市道であるが、大規模スポーツ施設関連と並行して、緊急的に整備の必要性のある道路として、用地買収ができなくとも、幅員12m程度の歩道も含めた道路を確保できるものと考えており、提案提示しているところである。将来構想路線として表現する必要性は認識しているが、現計画としては平成32年までの10年間に具体化する項目について挙げている。

<湊委員>

将来的とはどの程度先を考えているのか。人口を増やすためにはまず縦の道路を考えなければならないのではないのか。人口増、商工業進展が進むとさらに国道9号の渋滞はひどいものとなる。

<まちづくり推進部長>

この10年間に整備できるかとなると、現在の道路整備における用地買収等の進捗状況を鑑みても困難である。将来的な構想があるとの表現は必要であると考えが、10年以内に実施するという点については、嘘をつくことはできない。都市計画決定をする街路網としての表現が都市計画マスタープランの位置づけとなる。将来道路網の構想として表記することは必要であるが、それ以上のことはできない。

<藤本委員>

改定案の資料を簡略したわかりやすい内容にまとめられた。全体像をわかりやすく市民に説明する場を多く設けていただき、市民と夢を共有できるよう努められたい。要望。

<小島委員>

将来都市構造図の中で、JR千代川駅、千代川インター周辺の開発のバランスはどのように考えているのか。田畑が多いことからスプレッドの工場的な農業、環境に配慮した施設の誘致、国営ほ場整備計画との整合や地域の声は反映されているのか。千代川駅バリアフリー化や自動車学校用地の宅地開発、鳴滝工区の開通による372号からのアクセス面の利便性などへの考えは。

<まちづくり推進部長>

千代川インター周辺は現調整区域であり、国営ほ場整備の中で機能地設定をしないと、農地転用すらできない。これまで関係部課との協議の中でも議論を重ね、市長からは、国営ほ場整備に対して、土地利用に整合するようなセールスをするよう指

示がでたが、機能地設定がとれないと、都市計画側からはインター周辺の土地活用に取り組みない。ただし現調整区域の中でも農業を主とした開発は可能であるので、農業に特化した集約農業的な土地利用としてはあり得るものと考えている。都市計画側からの土地利用となると国営ほ場側とバッティングするので、国営ほ場整備の取り組みに委ねている現状である。ＪＲ千代川駅周辺については、自動車学校の跡地利用、駅バリアフリー化、東側の駅前広場の整備も含め、議会での市長の答弁どおり、この４年間を目途としてできるだけ早く整備を進めていきたい。

<福井委員>

① 余部郷ノ口線と国道３７２号の関係については、その効果を考える限り、概念路線としてでも、ぜひとも計画に描いてほしい。要望。

② 亀岡市街地、旧町内の都市計画道路の整理について、今後の見通しは。

<都市計画課長>

候補路線をあげて整理をしている。今後、地域への事前説明、都市計画決定の変更のため、都市計画審議会への諮問が必要となる。現状、景観の関係についても地域との接点がとれていない中であるが、景観を守るための道路網の見直しとして、地域への説明の接点を探っている段階である。

<福井委員>

その整理もできていないまま、このプランをいきなり出すことを危惧する。そのあたりの整合を図るべき。

<西口委員>

湊委員、福井委員の意見のように、亀岡の将来像として、現在考えているプランについては、夢であっても計画に盛り込むべきと考える。あらゆる可能性のあることについては、それをアピールする姿勢をもたれたい。一部コーナーを設けてでも構想を載せるよう特に要望する。

<まちづくり推進部長>

先般の都市計画審議会での意見、本常任委員会での提言や意見、パブコメを含めて集約し、再度フィードバックし、最終取りまとめたものを都市計画審議会に付議していきたい。時間はかかるが前向きに検討を深め、見直しを進めていきたい。

<藤本委員>

計画決定していないものをどんどん入れていくとわけのわからないものになってしまう。方向性について地元の意見も踏まえ、おとせるものだけおとす簡略な説明のものとされたい。要望。

<菱田委員長>

市民にとって、亀岡は夢のあるまちと感じてもらえるよう、将来の大きな夢のある構想の中での１０年間のプランとされたい。委員長としても要望しておく。

[理事者退室]

～１１：２５

３ その他

<菱田委員長>

次回の開催についてご意見を。

<藤本委員>

３月定例会の常任委員会があるので、月例開催はなしとされたい。

<全員了承>

～11：26